

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1F)

事業所番号	0672600350		
法人名	有限会社 葉山		
事業所名	グループホーム はやま荘		
所在地	山形県東置賜郡高畠町大字高畠530番地の1		
自己評価作成日	令和元年11月6日	開設年月日	平成18年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを大切に家庭的な雰囲気の中「穏やかに・ゆったりと」安心して過ごしていただけるよう支援を行っています。そして、「いつも笑顔」を合言葉に利用者の方々笑顔はもちろんのこと、職員も日々笑顔で支援を行っています。今年は、年頭に「信頼を得る」利用者、家族、そして地域からの信頼を得るを目標に掲げ利用者、家族の方々との信頼関係をしっかりと築き、はやま荘で良かったと思っただけの施設づくりに努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和元年11月25日	評価結果決定日	令和元年12月17日

これまで暮らしてきた町で利用者が安心して過ごせるよう家庭的な雰囲気作りに努め「職員の笑顔が利用者の笑顔をつくる」支援を行っています。本年度の目標に「信頼を得る」掲げ、利用者への支援、家族への細やかな報告、地域との交流で利用者・家族等の連携を深め、人生の最期をはやま荘で送られた方もおり、利用者・家族等からの信頼を得ていることがうかがわれます。利用者は毎日の生活の中で出来ることを手伝い張り合いを持ち、また食事や入浴を楽しみ、地域の人々との交流で喜び、そして穏やかにゆったり過ごしているよう職員全員で支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『はやま荘は専門的介護サービスと地域ニーズに密着した高齢者のための介護を提供します』を介護理念に掲げ毎月の全体ミーティング時、全職員で唱和し共有に努めている。また、今年は『信頼を得る』を目標とし、利用者や家族、地域の信頼を得られるよう努めている。	介護理念のもと「信頼を得る」を本年度の目標に掲げ、毎月のミーティングで話し合っている。利用者・家族等・地域から信頼を得るために日々の関わりの中で何をすべきかを職員全員で共有し、研修や接遇、家族等への細やかな報告などを通して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例となっている『はやま荘夏祭り』のさいは、近所の方々へ案内し交流を大切にしている。また、町内の祭りや芸術文化祭などに出かけるなど地域との繋がりを大事にしている。	カラオケボランティアとの交流で歌い笑い、地域の祭りや文化祭へ出かけ楽しんでいる。「はやま荘夏祭り」では案内のチラシを町内に配り、よさこいソーラン踊りなどで地域住民と共に笑顔で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高島町の高齢者等見守り・徘徊SOSネットワーク事務局のメールサポーターとして登録、協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的開催、各回毎テーマを設け意見や情報を頂きサービスへ活かしている。また、サービス状況の報告の他、職員で行っている勉強会なども紹介、嚥下障害、誤嚥の対処方法などはとても興味を持たれて色々な意見を頂くことができた。	地域より区長や民生委員、老人相談員などの委員が参加し地域との繋がりを密にしながら事業所運営や利用者の生活の様子を伝えている。嚥下についてや水害など時節にあったテーマを示し、介護支援の取組みや地域情報など意見交換をしている。	出来るだけ家族等に参加してもらえような取組みの検討に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当の方々には、情報を密に頂いている。運営推進会議にも常時参加して頂き地域の情報やアドバイスを頂いている。	福祉課職員が運営推進会議に出席し、現況・取組みを把握した上での情報提供やアドバイスをもらい、また介護保険や防犯など事業所運営に係る相談も行いながら協力関係を築いている。町の高齢者等見守り・徘徊SOSネットワークへの協力も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体的拘束等の適正化のための指針をもとに、全職員参加のミーティングのさい身体的拘束、権利擁護について勉強会を行っている。職員同士の声掛けによる連携を行うことにより見守りに徹し、決して無理に行動を制止するのではなく、一人ひとりの思いに寄り添うケアを実践し安全にそして安心して生活していただけるよう取り組んでいる。	「身体的拘束等の適正化の為の指針」を明確にし、研修や勉強会を通して職員全員が理解して毎日のケアに取り組んでいる。否定しない言葉遣いで会話をし、利用者の様子を常に視界に入れながら職員同士の声掛けで離脱や転倒を防止し、安全な暮らしが出来るように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、県主催の高齢者虐待防止研修会に参加したり、また荘内研修会で虐待とは何かを学び、決してあってはならないことを心得ている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用されている方はいないが、以前に利用に向けて地域包括支援センターと相談、連携を取り支援を行った利用者の方もいた。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約をかわすさいは、重要事項説明書にて説明を行い理解、納得して頂けるよう努めている。改定等のさいは、その都度、書面にて説明し理解、納得して頂き、変更同意書を利用取り交わしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情受付窓口を設置し、相談、希望、要望等どんなことでも受け付け迅速な対応に努めている。また、家族が訪問されたさいなど、いつでも気づいたことなどを職員へ伝えて頂くなど窓口を大きく開き意見を伺うようにしている。	毎月の「はやま荘だより」や担当者から家族宛に利用者の暮らしぶりや活動の様子などを詳しく伝え信頼を得られるように努めている。面会や電話連絡時、夏まつり・敬老会など行事の際には率直な意見や要望を聞き支援に反映させている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回定期的に代表者と全職員参加のミーティングを行っている。そのさい、職員全員が一人ずつ意見や提案、思いなど自由に話す機会を設けている。意見や提案などは大切に検討している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月のミーティングや、随時行われる幹部会等で職員の意見や要望を話し合い働きやすい職場環境・条件の整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験やレベルに合わせ年間計画を作成し外部研修へ参加したり、毎月のミーティング時を利用して勉強会を行っている。また、資格取得のため研修を希望する職員に対しては勤務等の配慮を行っている。	「笑顔で関わることで利用者の信頼を得る」を共通認識として持ち、ミーティングでは反省や気づきをもとに一人ひとりが支援目標を振り返りながらレベルアップを図っている。経験やレベルに合わせた外部研修会への派遣や資格取得への支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地区のグループホーム協議会に参加し、同業者とのネットワーク作りを図っている。また、研修や交流会に参加し仲間づくりやよい刺激を受け業務に活かしている。	同業者とは会議や研修会を通して、情報の交換や他事業所の取組みを知ることでサービス向上に繋げている。グループホーム協議会や外部研修会などでの交流は同じ立場として良い刺激を受けている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な気持ちに寄り添いゆっくりと本人の思いに耳を傾ける。傾聴し、全てを受け入れる(否定しない)支援を行うことにより信頼関係を築いていけるよう努めている。また、同時に、本人が安心して過ごすことができる“居場所づくり”を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談を受けた時からサービス利用開始するまでに家族が困っていること、不安なこと、要望等を充分伺い家族も安心できるよう努めている。また、これから本人が安心して過ごせる生活の場となるよう努めていくことを伝え、且つ、そのために家族と協力し合っていくよう申し合わせを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なアセスメントを行い、本人、家族が今必要としている支援は何かを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の方々を人生の先輩として尊敬の念を持ち支援を心掛けている。これまで培ってきたこられた経験や習慣、また、郷土料理などを教えていただき共に行い、楽しみや喜びを共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月作成する“はやま荘だより”と担当職員からの過ごしの様子をお知らせするお便りを毎月郵送しお伝えしている。また、家族への情報の連絡を密に取り合い、情報を共有していただき、家族の意向に沿う対応に努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時より利用していた美容院で髪を染めたいと定期的に出かけられる方もいる。また、遠方にいらっしゃる友人の方と以前同様、手紙のやり取りや、贈り物を送ったりと楽しみにされており、継続できるように家族の協力を得ながら支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や日々の行動を観察し、気の合う仲間づくりができるよう努めている。また、一人ひとりに合った役割を持っていただくことによって支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了された後も経過を報告して下さったり、今後を相談されたりする家族の方もいる。いつでも相談に応じることができることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントツールの中でセンター方式シートを活用し一人ひとりの思いの把握に努めている。傾聴を心掛け、日々の会話や行動、表情などから得る情報を大切にしている。	毎日の利用者との関わりの中でとらえた思いや意向は日々の業務記録に記入すると共にケース記録に記入して職員全員で共有出来るようにしている。歯医者にかかりたいなど出来ることには素早く対応し、意向を大切にしたい支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から得た情報をフェイスシートにまとめ職員で共有している。また、これまで利用されていたサービス事業者や病院の医療連携室と連携を取り情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックと表情を観察し体調把握に努めている。また、日々の過ごし様子、会話や行動を見守り、観察し現状の把握に努めている。またそれを気づきも加え一人ひとりのケース記録用紙へ記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや家族の希望とケース記録や職員の気づきをもとに月目標を定め全職員で取り組んでいる。ケース会議で事例を検討し、必要に応じて医師や看護師の意見もいただき、一人ひとりに合わせた計画を作成している。	プラン作成時は利用者一人ひとりが「笑顔が見られ安心して生活出来る」ようにすることを大切に考えている。利用者・家族等の思いや意向、ケース記録や職員の気づきをもとにした月目標の達成度に配慮しながらケース会議で意見を出し合いプランの作成・見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	過ごしの様子に加え、一人ひとりの目標に向けたケアの実践や気づき、工夫等を個別記録(ケース記録)に記録し職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区のカラオケ愛好会や語りべの会など多くの訪問をいただき、日々の生活に彩りを添えていただいている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により主治医を選択していただき、希望に沿った受診を支援している。協力医は近所であることもあり、状況によっては、直ぐに駆けつけてくれる。いつでも、電話で相談、指示を受けることができる関係を築いており本人、家族の安心を得ている。	以前からのかかりつけ医で受診している方もいるが、近所の協力医が往診に来てくれるので変更を希望する利用者が多い。雪が多い時などはホームに出向いてくれ、薬は一包化してもらい職員が管理している。重度化した場合などは相談に応じてもらい心強い協力関係が築かれている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を非常勤で配置し24時間オンコール体制をとっている。介護職員はいつでも電話にて相談を行い、また状況によっては、いつでも駆けつけ、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院したさい、介護サマリー等による情報提供を行っている。病院の医療連携相談室の方と密に連携を取り合い、早期退院に向けた働きかけや、医師による病状説明、退院に向けたカンファレンス等にも出向いている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用開始時点で、重度化した場合の対応に係る指針をもとに説明し本人、家族の意向を伺っている。また、その後状況の変化などその都度話し合いできるだけ本人、家族の意向に沿えるよう、主治医、看護師と共に支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の対応に係る指針」を明確に打ち出し職員は共有している。家族等には重要事項説明書と一緒に配布し、状況の変化に合わせて意向を確認し医療連携のもと話し合いを継続し、人生の最期をはやま荘で迎えた方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、消防署主催の救急処置の講習会などに参加し実践力を身につけている。また、内部研修に於いても応急手当や初期対応の勉強会を実施、最近では、“食べものをのどにつまらせた”場合の対応を行った。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと年間計画を立て避難訓練を実施している。水害においては、ハザードマップと町の担当の方からのアドバイスを受け、垂直避難を訓練した。非常食3日分も備えている。	災害に対するマニュアルを見直し、近年水害や地震などが頻発していることから、今年度消防署のアドバイスを受け水害を想定した垂直避難の訓練を行っている。ハザードマップや広域の避難場所の確認、消防設備の使い方などを職員に周知し、居室入り口には利用者避難の際に状態がわかるカードの表示をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの普通の生活(権利)を守ることを基本とし支援を行っている。一人ひとりの誇りを大切に、そして、人生の先輩であることを常に意識して関わり、色々な場面で感謝の言葉を伝えることを忘れずに、また、関わる時は、視線は同じく、または下からを心掛けている。	利用者のこだわりや楽しかったこと、また新たに知り得た情報を加えて理解を深めている。不快に思うことは言わない・やらないことで一人ひとりを尊重し寄り添う気持ちを大事に支援している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや場面設定を工夫することにより本人が選択、自己決定できるよう支援している。また、表情やうなづき等も見逃さないようにしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや希望に添った支援を行っている。食事時間等、個々の生活リズムに合わせた時間や本人が望む時間に食べていただいている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し本人の希望に合わせて髪を整えられるよう支援している。 化粧品を準備しご自分でそれぞれ化粧される場を設けている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を始める前に飲み込みを良くする嚥下体操を行っている。希望を伺いながら、旬の食材を使った郷土料理を心掛け、職員も一緒に頂いている。菊ちらしや、山菜の下処理、皮むき、焼きそば炒め等本人が得意とすることを職員とともに行っている。	献立は利用者の希望や頂いた食材などを利用して職員が作成している。今までの食べなれた家庭的な味を大事にし、職員も一緒に食べて和やかな雰囲気のある食事風景が見られる。漬物や干し柿づくりなど利用者の知恵が活かされた保存食を楽しみ、敬老会やクリスマス、年2回の出前寿司などで外食気分も味わっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取状況を観察し記録している。一人ひとりの状態に合わせた食事形態はもちろんのこと好みにも配慮し美味しく食べて頂ける工夫をしている。今年も暑い夏を元気に過ごしていただけるよう“はやま荘特製力水(元気水)”を常備し飲んでいただいている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の日課として支援している。一人ひとりの状態、力を把握し、個々に合わせて行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて記録し一人ひとりの排泄パターンを把握、適時の誘導でトイレ排泄へ繋がるよう努めている。入所時、オムツ使用していた方が現在では紙パンツ着用へ変わられた方もいる。	排泄チェック表を活用し、定時の誘導でほとんどの方がトイレでの排泄に繋がっている。夜間はポータブルやおむつ使用の方には、尿量に応じてパットを使い分けて対応している。入居してから自立に繋がった方もおり、少しでも気持ちよく過ごせるように取り組んでいる。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今年から新しい取り組みとしてカスピ海ヨーグルトを手作りし毎日食べていただいている。また、排泄パターンからつかんだ個々の排便時間を逃さないように誘導を行うなど、決して下剤だけに頼らない支援に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一番風呂や湯温など希望に合わせて気持ちよく入浴できるよう支援に努めている。自ら希望されない方には声掛けを工夫するなど無理強いすることなく行っている。また、身体面で困難な方は安全に留意し二人で介助を行い不安なく入浴できるよう支援している。	週2回を目安に、利用者の状態に合わせて職員が一人または二人で介助している。水虫がある方で毎日足浴対応し改善に向かっている方もいる。職員は浴槽につかってゆっくり温まってもらえるように配慮し、話が弾む時間となっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じてベッド位置や向き、室温、掛け物等を配慮し安心して眠れる環境作りを行っている。休息のさいは、どこでも本人がお気に入りのところで過ごせるよう支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬できるよう職員管理している。使用薬一覧を確認し使用している薬を理解し、一人ひとりの状態に合わせ支援している。また、頓服服用に関しては、必ず記録し情報を共有し症状の変化の確認に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し日々の生活が生き生きとしたものとなるよう支援している。一人ひとりの力に合わせ洗濯物干しやたたみ、トレー拭きなど役割支援を行っている。秋も深まると柿の皮むきが日課となりホール軒下に柿の暖簾が出来上がるのを楽しみにされている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはドライブへ出かけている。季節の花々を見学したり、また車窓から季節の移ろいを感じたり楽しみとなっている。家族の協力を得て家族と一緒に出かけ外食を楽しまれている方もいる。	利用者はドライブが好きな方が多く、天気の良い日はできるだけ出かけ、利用者の気分転換を図っている。普段は買い物や畑仕事に行ったり、役場前の人の往来を眺めながら散歩などを行っている。冬期間はカラオケやオセロゲーム、塗り絵などの室内活動を主に利用者とコミュニケーションを図っている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じて所持されている方もいる。本人の依頼を受け買い物をすることもあれば、一緒に出かけることもある。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人との手紙の交流を大切にされている方がおり一緒に投函へ出かけるなど、継続できるよう支援している。また、希望のさいはいつでも、兄弟、子供たちと電話できるよう支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう装飾を工夫している。また、カーテン、簾、エアコン、床暖等で室温、遮光等配慮し、落ち着いて過ごしていただいている。	床暖房で下からの冷えがなく利用者にとって動きやすい環境になっている。温湿度計でチェックして乾燥に注意し、各居室には濡れタオルをかけるなど配慮している。利用者手作りの季節感がある作品や家族による折り紙作品などが掲示してあり話題づくりにもなっている。テレビ前のソファー席で横になるなど自由に過ごせる居心地の良い空間になっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブルの配置を工夫し、気に入った所で自由にくつろげる空間作りを行っている。気の合った仲間同士で過ごせる場所や一人で過ごす場所を作りそれぞれが居心地良く過ごせる場所作りを工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時より馴染みの家具や、ぬいぐるみ等、家族の協力を得ながら備えて居心地の良い安心できる部屋作りを工夫している。本人の好みや思いに合わせた写真や絵、花等も飾っている。	居室は利用者がそれぞれ持ち込んだもので安心感が得られ、女性らしく花の絵や家族が毎週届けてくれる生花を飾ってる方もおり一人ひとりの個性が見られる。職員は家具の配置など動線に注意し、安全に気を配って支援している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室など全て手すりを備え安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。			